

県指定文化財

ゆうふくじいちりづか

4 祐福寺一里塚



名古屋と岡崎を結ぶ街道“駿河街道”に設けられた里程標のひとつ。慶長17年（1612）名古屋城の築城とともに、徳川家康によって名古屋と岡崎との近路として開かれ、後には東海道の裏街道としての役割を果たしていました。この街道には、平針に伝馬が置かれ、松並木が植えられ、一里塚も築かれました。それらの殆どが消滅しましたが、祐福寺一里塚のみが双ヶ塚をなし、徳川期交通上の遺産となっています。昭和45年には、北側の塚上に石碑を築くとともに、南側の塚には塚の崩壊防止のため周囲に石積み